

障がい学生支援

<事業概要>

大学コンソーシアム京都では、2001年度から、障がいのある学生支援の在り方について検討を始め、2004年度から「ノートテイク養成講座」を、2016年度からは「パソコン(PC)テイク養成講座」を開講しています。

また、加盟校の障がい学生支援窓口を中心としたネットワークとして「障がいのある学生支援に関する担当者会議」を2002年度から組織し、意見交換や勉強会等の場としてきました。担当者会議は2011年度まで開催し、今後の検討期間を経て、2015年度からは「関西障がい学生支援担当者懇談会」(KSSK)を主催しています。

<主な活動項目>

- ◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会(KSSK)
- ◆ ノートテイク・パソコン(PC)テイク養成講座
- ◆ 障がい学生対応における施設対応
- ◆ 大学障がい学生支援懇談会
- ◆ AT Library
- ◆ 情報保障コーディネーター

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

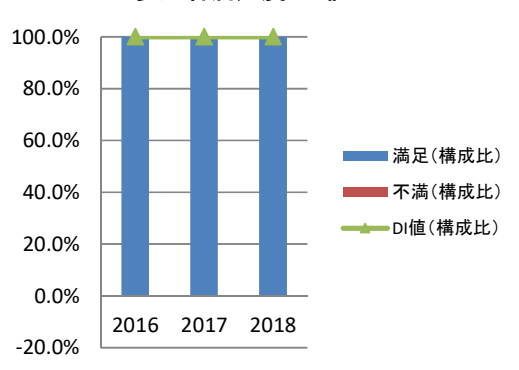
◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会(KSSK)

<事業概要>

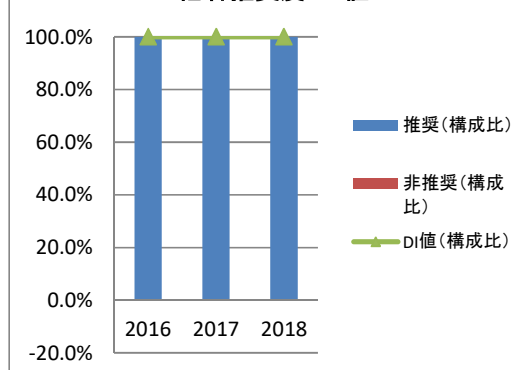
関西における障がい学生支援担当者のネットワークづくりとして、「関西障がい学生支援担当者懇談会」(略称KSSK)を開催しています。KSSKはこれまで、教職員有志による世話人により運営されてきましたが、大学コンソーシアム京都が主催及び事務局を担うことで組織的な運営体制を実現しています。

KSSKの基本理念としては「実務目線」でざっくばらんに話し合うことを目的としており、各大学の事例報告や少人数による分科会など、障がい学生に関する支援の情報交換や現場の悩みの共有など、関西地域におけるネットワークとして機能しています。

参加者満足度 DI値



他者推奨度 DI値



参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	94	94	75
不満(名)	0	0	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107

他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	98	89	78
非推奨(名)	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107

<参加者の声>

- 他大学の同様の業務に携わる方々の顔を見ながら、お話ができた
- 講演、分科会のバランスがよくたいへん勉強になった
- ペアワークや検討事例の分科会があれば参加したいです。
- ロジャーマイク環境のご用意ありがとうございました。
- 具体的に現在感じているジレンマや課題について話すことができ、とても良かった
- 最後の情報交換会では移動がしづらく多くの方とお話できなかった

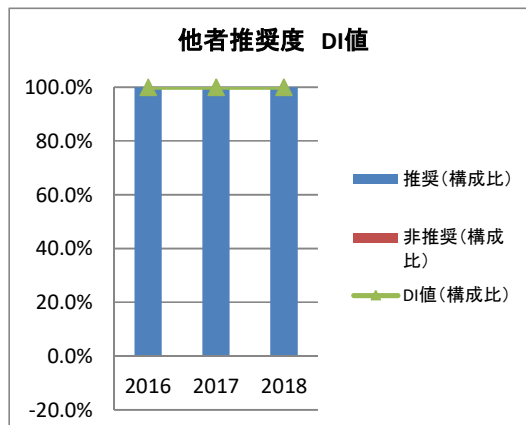
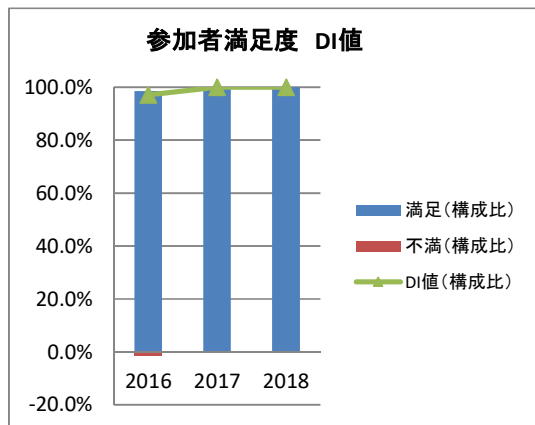
<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 参加申込をインターネット化して情報収集の仕組みを改善した
- 話題提供をシンポジウム形式にして参加者全員で検討するという双方向での形態で実施した
- ロジャーマイクを積極的に導入できるよう情報保障を行った
- 事前に話し合いたい内容を募集して担当幹事に共有をした
- 情報交換会については開催場所を見直し、移動がしやすいホールでの開催に変更

◆ノートテイク・パソコン(PC)テイク養成講座

<事業概要>

近年、大学において、聴覚障がいのある学生が多く学んでいる中、講義の「情報保障」が求められています。その対応として代表的な方法が、講義の情報を聴覚障がいの学生に伝える「ノートテイク」「パソコン(PC)テイク」です。ノートテイク・PCテイクの養成は各大学にて普及してきましたが、その指導方法やノウハウの構築などが不十分の大学も存在します。また、テイクの経験不足や人材確保など様々な悩みを有する大学も多く見受けられます。本講座は、テイクとその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義、実践を通じて、少しでも多くのテイクを養成し、ノートテイク・PCテイクに関するコミュニティの構築を目的に開講しています。



	2016	2017	2018
満足(名)	67	44	15
不満(名)	1	0	0
満足(構成比)	98.5%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	-1.5%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	97.1%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	77	58	17

	2016	2017	2018
推奨(名)	55	43	14
非推奨(名)	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	77	58	17

<参加者の声>

- 初めに聴覚障がいの実態を当事者から紹介され、より深く学ぶ意義が理解された
- ノートテイクの体験と添削があり良かった
- 障害を持った人やノートテイクの人たちの体験も伺えてよかった
- 講座前と講座後で注意すべき点に変化し、より内容を書くことができた
- 実際にパソコンを用いてPCテイクをしたことが分かる大変さ・難しさが分かった
- もっと多くの人数の失聴者のハナシも聞きたいです

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 2人で1台のパソコンの使用は体験時間が減るため、1人で1台になるようパソコンを配備した
- 体験会では協力団体に依頼をして当事者学生に登壇いただき実際に困っていることなどを共有いただいた
- PCテイクのみに限定する方向性であったが、ノートテイクの需要もあることがわかり両方を実施できるようにした
- 専門の講師の方に事後アンケートの結果などを共有し、次年度以降の参考になるようにした